

平成 30 年度 第 1 回沖縄県がん連携協議会相談支援部会議事要旨

日 時：平成 30 年 5 月 31 日（木）14：00～17：15

場 所：琉球大学医学部附属病院 3 階がんセンター

出席者：8 名 島袋幸代（県立中部病院）、宮城郁美（北部地区医師会病院）、慶田博子（県立宮古病院）、金城美奈子（県立八重山病院）、樋口美智子（那覇市立病院）、増田昌人（琉球大学医学部附属病院）、大久保礼子（琉球大学医学部附属病院）、山田綾美（琉球大学医学部附属病院）

【報告事項】

1. 平成 29 年度第 4 回沖縄県がん診療連携協議会相談支援部会議事要旨

資料 1 に基づき、平成 29 年度第 4 回沖縄県がん診療連携協議会相談支援部会議事要旨が承認された。

2. がん患者ゆんたく会（1～4 月）

資料 2-1、2-2、2-3 に基づき、平成 30 年 1～4 月に各拠点病院にて開催された「沖縄県がん患者ゆんたく会」について報告があった。県立中部病院では、3 月にピアサポーターの参加があり、反応も良く、地域統括の方とサポートしあいながら続けていけたらとのことだった。新しい方を取り入れながら継続していく工夫が必要である。那覇市立病院では、参加者は 1 桁台を推移している。琉大病院では、全てフリートークで毎回 2～3 名の新規の方の参加がある。参加者のがん経験年数の差が極端になるが、ベテランさんの声掛けが支えになっている。新規の方が参加できるように周知もしていないといけないとのことだった。県立宮古病院では、患者サロンを開催したが、参加者がいなかった。県立八重山病院では、月に 1 回、院外でゆんたく会を行っている。

3. がん相談件数（1～4 月）

資料 3-1～3-7 に基づき、平成 30 年 1～4 月の各拠点病院のがん相談件数について報告があった。北部地区医師会病院では、4 月は新規の相談が立て込み多くなっている。ほぼ院内の相談で電話相談が多くなっている。県立中部病院では、2 月が極端に少なくなっている。シートで細かい所で違いがあり、統計の出し方も違っていたので次回から琉大病院の統一したシートに揃えていくようにする。県立宮古病院では、専従・専任の相談員が関わった症例のみの統計になっている。県立八重山病院では、2 月が県立中部病院と同様に少なくなっている。4 月より入院支援室が開設され、看護師も 2 名配属され、同じフロアにいるので入院前に顔合わせができて、早めの介入が出来るようになっている。外来にてスクリーニング（気持ちのつらさ、症状のつら

さ)も続けている。そのままでは帰さないというスタイルでやっている。全体件数の何割がスクリーニングで案内されているのかについては、これから集計をとり、その評価も行っていくとのことだった。琉大病院では、これまで専従1名だったのが、4月から専従・専任の2名体制で行っている。大久保委員より、平成29年10月～12月分の6拠点病院の集計について報告があった。少し項目のズレがあることが改めてわかったので、項目の統一の協力依頼があり、毎月ごとの件数を毎回の部会で報告できるようにしていきたい。県立中部病院は、専従・専任・兼任がいるので退院調整と絡むところがあり難しいところではあるが、相談件数の上げ方をまた考えていくとのことだった。

4. 都道府県がん診療連携協議会 情報提供・相談支援部会

資料4に基づき、増田委員より都道府県がん診療連携協議会情報提供・相談支援部会について報告があった。

がんゲノム医療の提供体制について、新しくゲノム医療の中核拠点病院が全国に11病院でき、九州地区は九州大学病院が指定を受けた。11病院以外の拠点病院は連携病院の申請を行わなければならないが、沖縄県は申請していない。今年度上半期中に琉大病院が九州大学病院の連携病院として申請をする予定であるとのことだった。

平成29年度情報提供・相談支援部会ワーキンググループでの検討内容とその後の動きについて、連絡協議会から他の部会からの意見も取り入れ、良い意見は出たが、厚生労働省側はあまり取り入れてくれなかった。

災害対策について、首都圏に大地震が起こった場合、国がんのホームページがダウンしてしまうことがあるが、その場合は九州がんセンターが受け持つようになる体制がほぼ完成しきっているとのことだった。

大久保委員より、相談員研修基礎(3)や指導者研修などの研修会は引き続き行っていくが、注意点として2020年オリンピック開催の為、築地での開催がこれまで通り出来ない可能性があるため、今年度から計画的に研修の参加を検討くださいと周知がなされた。

5. 九州・沖縄地域相談支援フォーラム

資料5に基づき、大久保委員より九州・沖縄地域相談支援フォーラムについて報告があった。大分フォーラムの時から半日開催となっており、今年度は宮崎県で平成31年1月26日の午後の開催予定となった。平成32年度は佐賀県での開催が決まった。佐賀県で九州一巡するので、次年度また検討していくとのことだった。今回の宮崎フォーラムでも、各県の取り組み報告は行うとのことなので、各県それぞれ実行委員と報告者の依頼が入る予定とのことだった。

6. 【施策6】相談支援センターチェックリスト

資料6に基づき、大久保委員より相談支援センターチェックリストについて報告があった。年度末に各相談支援センターの活動に関する30項目のチェックをつけて頂き、取りまとめた結果、窓口の掲示、チラシの配布、相談員研修の受講はすべての相談センターで取組めてきている。チェック項目の中で、地域の医療従事者向け・就労支援関係者向けの勉強会や広報が少なかった。今年度、機会があればチェック項目の見直しも行うとのことだった。

7. 第4回がんサロンネットワーク会

当日資料に基づき、大久保委員より第4回がんサロンネットワーク会について報告があった。

8. がん相談支援センター広報活動

資料9に基づき、山田委員よりがん相談支援センター広報活動について報告があった。4月5日、5月10日の「週刊ほ一むぷらざ」、4月5日の「週刊レキオ」にがん相談支援センターの無料広告が掲載されたこと、また、宜野湾市野の広報誌への掲載されたことが報告された。

また、大久保委員より、市町村よりがん検診のクーポンなどにがん相談支援センターの番号の掲載依頼があった場合には事務局で掲載許可を判断することについて部会委員への確認があり、全員了承された。

【協議事項】

1. 平成30年度の部会事業の行動計画について

資料7に基づき、増田委員より国の第3期計画、県の第3期計画に基づいて部会の再編成について説明があり、6つの部会と5つのワーキンググループに整理をしたとのことだった。これまでの相談支援部会は情報提供・相談支援部会となり、県計画における相談支援と情報提供及び就労を含めた社会的な問題をカバーすることとなり、2名の患者委員が加わることになる。

5月13日の研修会で部会計画について、ロジックモデルを用いて分野アウトカム・中間アウトカム・個別施策について検討したことも含め協議が行われた。

増田委員より、部会計画に関して、沖縄県全体のがん患者さんをどう支援していくのかを部会として6年後にあるべき姿を考えていく必要がある。6拠点病院が現在実施していることにさらに力を入れるか、6拠点病院以外の病院を巻き込んで育てていくのか、どのような方向性で進めていくのかディスカッションをして検討してほしいと提案があった。

2. 平成 30 年度の部会事業の予算について

平成 30 年度の部会事業予算については、事業計画を立てながら、引き続き検討することとなった。

3. その他

部会役員について、部会長は島袋委員、副部会長は樋口委員・大久保委員を了承された。

次回の相談支援部会は 7 月 26 日（木）を第一候補とすることとなった。次回、事業計画案をそれぞれ持ち合い、また、どのような研修会を開催するかについても検討していくこととなった。